

日程：

12月23日（水） 於附属図書館4階大会議室
13：30～15：00 発表・討論

「目録カードの自動項目分類システム」

富山大学工学部 吉田順作 米田正明
〃 長谷博行 酒井 充

12月24日（木） 於大型計算機センター
10：00～11：30 報告、見学

「京都大学における光ディスクを用いた図書
目録カードの格納・検索の実験」

京都大学大型計算機センター 星野 聡
〃 堀池博巳

そのうち本学大型計算機センター、星野教授による実験報告の概要を次に紹介する。

1. 実験の概要

京都大学附属図書館の総合目録は和、洋書カードを総合すると約500万枚を数え、そのうち昭和39年6月以前のもは小型カードを使用していて、その数は約200万枚である。この小型カードは追加、修正を施すことなく昭和39年7月以降の標準カードと別置して利用に供している。その多く

は変色したもの或は印字が薄くなったものでコントラストは必ずしも良好ではない。このカード約1,000枚を対象にしてA4サイズの用紙に十数枚を縮小コピーした。見出しとして左上部分に最初と最後の読みの検索キーを付し、必要に応じて注記を加えた。格納・検索には情報検索システムFAIRS-1と、画像の格納・検索にELFを使用し、光ディスク装置は大型計算機センターで試験的に使用しているF6441B1型を用いた。

2. 実験の結果

オリジナルカードの品質を考慮に入れば出力されたコピーの品質は意外に良好で、判読に充分耐え得るものと思われる。しかしサンプルに用いた目録カードは約1,000枚に過ぎず、その検索効率を調べるには更に多くの件数を格納してみる必要がある。特に和書は書名の五十音順であるが、漢字により排列されているので、ある読みの範囲を指定したときに複数の目録コピーに分散する可能性があること等が、問題点として残り、今後の研究課題となろう。

外国学術図書の購入について

文部省では、近年における学術研究の急速な進展に伴い、国立大学図書館において、国際的に評価の高い外国学術図書の重点的整備を図るため、昭和62年度補正予算において、外国学術図書の購入費として特段の予算措置を講じ、本学にも約7430万円の予算配当がありました。

本学ではこれを受けて、9月9日に選書分担商議員会議を開き、当予算の趣旨説明を行い、次いで選書方針について審議され、各学部及び教養部に購入図書の推せんを依頼することになりました。その結果、12月9日に集計したリストを人文科学、社会科学、理・工学、医学・生物学、複合の5分野に分けて入札を行い、各業者と契約を結びました。現在、現物が続々と到着しています。冊数にして約8,000冊を数え、3月末までに納入が完了

する予定です。

《展 示 会》

「近世人の読書——大惣本をめぐって」
を開催

附属図書館では、昭和60年度から文学部日野教授に調査研究員を委嘱し、本館に所蔵している“大惣本、(本号記事「大惣本目録」の刊行について、参照)について調査・研究がなされてきたが、今回、約3分の1の図書について解題が出来、その目録が刊行されることとなりました。又、新入生に対し図書館の所蔵している貴重な資料の一端を紹介する意味も込め、下記により展示会を開催することになりました。多数ご覧下さるようお願いいたします。